

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0191500024		
法人名	医療法人社団 健亮会光銭医院		
事業所名	グループホーム 杉の木		
所在地	北海道上磯郡木古内町字本町704 (電話) 01392-2-3335		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月12日	評価確定日	平成21年10月30日

【情報提供票より】 (平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 18年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	15人、非常勤 0人、常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2、3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	暖房費 10月~4月 7,000円/月
敷金	有 (円)		<u>無</u>
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	光銭医院、木古内町国保病院、あひこ歯科クリニック、おた歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム杉の木」は、函館より松前町方向南西40Kmぐらいに位置している。施設は3階建てで利用者の居室からは海、山ともに良く景色が見え、外に出なくとも季節の移り変わりを感じる事が出来る。屋上には利用者の気晴らしと健康を考えて、パークゴルフが出来るよう設備され、天気の良い日はそこで和気藹々と利用者と職員が楽しんでいる。運営者が医師でもあり今まで3人の看取りを経験している。それを通して職員の意識も高まっている。研修にも良く参加されており、今後さらなる活躍が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議において、地域の理解と支援に向けて改善されている。今後、さらなる努力を続ける事を期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に一度実施している。会議には家族も参加しており、よりよいグループホームを目指して取り組んでいる。近況報告が多いが、施設の理解を深めて頂くよう努力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と話し合える機会を持ち、気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。苦情が1件持ち込まれたが、利用者家族に良く説明し、理解を得て解決している。3ヶ月に1回程度ホーム便りを出しており、来られない家族には郵送している。また、電話やメールでも報告している。月1回の利用料請求時に、健康状態も含めて様子を伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会のない地域ではあるが、散歩や買い物の時にご近所の方と挨拶を交わしている。ボランティアにもたくさん来て頂いて、お茶会、踊りの会などで交流している。夏祭りなどの行事に参加し、地域との交流を重ねている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”柔軟な対応”と”きめ細やかな健康管理”という理念をかかげている、利用者本位に徹しており、朝の表情を見て体調を推察し、健康管理に気を付けている。毎日地元の野菜を買いに行き、地域との交流に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と調理室に理念を掲示しており、また、日々の申し送りの機会を通して職員は再確認しながら、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のない地域ではあるが、散歩や買い物の際にご近所の方と挨拶を交わしている。ボランティアにもたくさん来て頂いて、お茶会、踊りの会などで交流している。夏祭りなどの行事に参加し、地域との交流を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価で指摘された件については、職員全体で取り組み改善に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一度実施している。会議には家族も参加しており、よりよいグループホームを目指して取り組んでいる。近況報告が多いが、施設の理解を深めて頂くよう努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の地域ケア会議は、町介護保健課を含めて在宅・訪問介護・訪問臨床などの施設の参加を得ている。「杉の木」はグループホーム新規利用者のコーディネーター役も引き受けており、市町村との連携を密に連絡をとりあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の利用料請求時に、健康状態も含めて様子を伝えている。3ヶ月に1回程度ホーム便りを出しており、来られない家族には郵送している。また、電話やメールでも報告している。久しぶりの家族には「生活記録」を見ながら報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と積極的に話し合える機会を持ち、気軽に話し合える雰囲気作りに努めており、意見や不満を表せるように心掛けている。苦情が1件持ち込まれたが、利用者家族に良く説明し、理解を得て解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者はほとんどいない。ユニットは2階・3階に分かれているが、行事をするときは合同で行うので、利用者への馴染みは深い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てるための研修に積極的に取り組んでおり、函館市や北斗市の研修に参加させている。職員も介護福祉士やケアマネジャーを目指し、自己のレベルアップに努力している。管理者も勉強の方法など指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	渡島のネットワーク交流会の勉強会に参加している。研修会などで交流を持ち、その後電話などで情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に必ず利用者、ご家族共に見学して頂き、所内の判定会議を通して入所を決定している。入居後も利用者の状態にきめ細やかに対応するため、当初1ヶ月、以降3ヶ月とモニタリングし、工夫しながらサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は笑顔をもって積極的に利用者と接して行こうと心掛けている。利用者本意のペースを大切にしており、一緒に過ごしながら共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の本人・家族の面談から利用者の生活歴を把握したり、日常は「生活記録」の中に記述して、一人ひとりの思いや意向を組み、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時は1ヶ月後にケアプランを作成している。その後は職員全員で「ケア担当者会議」を月1回開き、全利用者を対象にモニタリングし、ケアプランをまとめ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は1ヶ月でモニタリングし、その後介護計画の見直しも3ヶ月毎に行っている。家族の意向や状況の変化により随時見直しを行い、きめ細かに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を取り入れ、外出・買物・受診対応など様々に支援している。内科・歯科・整形などの診療の往診がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎にかかりつけ医が往診に来ており、緊急な対応にも対処してくれている。他の医院、病院にも送迎・受診している。適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年3月の看取りを含めて、現在まで3人の看取りを行っている。最期の時まで利用者の希望を取り入れて看取っている。職員もその看取り介護を通してより良いサービスを目指している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者のペースを大切にすることを基本とし、プライバシーに配慮しながら穏やかに優しく対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるように支援している。行事委員会を設けて行事を増やしたり、催事を2階、3階の利用者合同で行う機会を設けたりして楽しく暮らせるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の野菜や季節の野菜などを積極的に取り入れ、五感を楽しむ食事を心掛けている。誕生会を初めとして季節の行事やたまに外食するなど、食事を楽しむ機会を多くしている。職員は一人ひとりの能力に合わせて、食事の準備、後片付けを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日（15時30分まで）出来るようにしており、入浴時間帯も本人の希望に添って支援している。週2回はいつている。お風呂は左右に移動できるようになっており、身体の不自由な利用者も容易に入浴出来るように工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々利用者本位のペースで生活している。利用者は行事の録画を観たり、ボランティアの歌や踊りを楽しんでいる。もちろん散歩や屋上で景色をみたり、パークゴルフを楽しんだり、一人ひとりに合った役割や楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物などに出かけている。脚の不自由な方は階段昇降機を利用して屋上に出かけ、海や山の景色をみて気晴らしをしたり出来るなど、戸外に多く出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に入ると鍵をかける利用者もいるが、職員が鍵をかけることはない。日中は玄関に鍵をかけていないが、管理上夜間（20時～翌朝6時頃まで）は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。夜間想定での避難訓練も行っている。地震対策や家具の転倒防止対策も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については個々に極端な偏りがないように、一日を通じて必要摂取量(1,000~1,500cc)が確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はゆったりとしており、明るく自然の温もりが溢れている。部屋のドアには手作りの大きく見やすい利用者の名前が掲げられている。清潔が保たれていて不快な臭いや音は感じない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や生活用品があり、居心地良く過ごせるようになっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。